

追悼



真室哲雄先生を偲んで

高淵 雅廣

Takafuchi Masahiro

関西の RI・放射線の分野で活躍されていた真室哲雄先生が令和元年5月2日に96歳で逝去されました。先生は、大阪府立放射線中央研究所に22年、その後アイソトープ協会甲賀研究所に11年勤められました。この間、先生は現在の「放射線安全取扱部会」の前身である「放射線取扱主任者部会」の関西常任委員長を10年にわたって務められました。私と先生の交流は、この関西常任委員会を通じて始まり、その後も一緒にいる機会が多かったです。今から30年も前のこの時期の関西常任委員会での活動の一端をご紹介します。先生の人柄を偲んでいただきたいと思います。

関西常任委員長に就任されてまず言われたのは、「関西常任委員会としてせっかく活動しているのだから、もっと世の役に立つことをやろう」ということでした。まず始めたのが、放射線業務従事者に対する教育訓練でした。各事業所からの依頼を受けて、近畿各地の事業所に出向きました。四国まで行ったこともあります。次に「後に残る事業をしたい」ということで、「やさしい放射線とアイソトープ」の編集に取りかかりました。アイソトープ協会の出版物は、それまでは学術的なものがほとんどでしたが、やさしくをモットーに編集作業が進められました。やさしさと正確さの両立は思いのほか大変でしたが、真室先生は安易に妥協することなく作業を進められました。最後に協会の出版の方との調整にも苦

労されたように聞いています。この「やさしい放射線とアイソトープ」は好評で版を重ね、現在は平成26年に第5版が刊行されています。初版から関わっていた者として、第5版の編集作業に委員長として加わりました。真室先生のようなリーダーシップは発揮すべくありませんでしたが、初版の刊行から30年近くたっており、先生のお考えを知っている者の中では現役に最も近いということでお引き受けしました。「やさしい放射線とアイソトープ」が出版されると休む間もなく、次の企画を提案されました。「やさしい放射線とアイソトープ」は、当初想定していたよりもやさしくなかったのです。それでできあがったのが、「放射線のABC」です。こちらはイラストが多く、苦勞しました。何度もアイソトープ協会の大阪事務所で検討を重ね、平成2年に完成しました。この間、甲賀の真室先生の宿舎に泊めていただいたこともありました。この「放射線のABC」も平成23年に改訂版が刊行されました。この2冊の本は、私にとって思い出の深いものであり、真室先生を中心として関西常任委員の先生方と編集作業に携わった思い出が今でも目に浮かびます。この時期は、今の「放射線安全取扱部会」近畿支部ではなく関西常任委員会という組織であり、常任委員は長い間ほぼ固定していたので、良くも悪くも仲間意識が強かったと思います。それで、真室先生のリーダーシップのもと、思い切った事業を企てることができたのでしょう。

真室先生を中心としてこの10年間に関西常任委員の先生方とお付き合いがあったのが、私がこの後、関西で放射線・RIの世界で仕事をしていく上で大きな意味を持っていました。出不精の私を引っ張り出して下さり、様々なところで多くの方々と知り合いになることができたことを、ありがたく思っています。また、仕事の仕方についても、おおざっぱな私とは異なり、丁寧にキチンとされる姿勢を拝見し、学ぶことが多くありました。恩人の一人である先生がお亡くなりになり寂しい限りですが、ご冥福をお祈りし、筆を置きます。

(元大阪医科大学)